



西中学校だより

令和 4 年 4 月 8 日
東久留米市立西中学校



令和 4 年度がスタートしました

校長 荻野 勝久

穏やかな大候の中、171名の新入生を迎え、第54回入学式が厳粛な雰囲気の中で行われました。今年度も新型コロナウイルス感染予防のため、昨年度同様の一部内容を変更した入学式となりました。そして1年生が新たに加わり、西中学校は合計465名での新たな出発となりました。これもひとえに保護者様、地域の皆様方のおかげと、改めて感謝申し上げます。また、保護者の皆さまにはお子様の進級、ご入学、誠におめでとうございます。

さて、本校の教育目標は以下の通りです。

【学校教育目標】

賢く 優しく 逞しく
一年 自主 二年 自律 三年 自治

そもそも学校は、「良き社会人」を育成するという社会的役割と共に社会的責任を担っているとは私と考えております。「良き社会人」とはどのような人かということ、社会に貢献し、世のために尽くせる人です。こうした人間を育成するためには、その基礎でもある「賢さ」と、思いやりのある「優しい」心、そして「逞（たくま）しい」強い身体が必要だと思えます。

また、この学校教育目標を達成するためには、「正義の通る集団」の育成が不可欠だと考えています。民主的で自治的な集団を育成して、その集団の中で「良き社会人」を育成することを目的として、生徒の資質・能力を最大限に伸ばしていきたいと考えています。また、それが学校の果たす社会的使命でもあると考えています。教職員が一丸となりまして一所懸命取り組んでまいりますので、宜しくお願い致します。

以下に、目指す学校、目指す生徒、目指す教師の各像をお示しいたします。

【目指す学校像】

- (1) 自治力のある集団、正義の通る集団としての学校
- (2) すべての生徒が心の居場所をもつ学校
- (3) 学習の基礎・基本を確実に身に付け、主体的に学ぶ力を培う学校
- (4) 学校・家庭・地域社会が共に協力をし、生徒を育てる学校

【目指す生徒像】

- (1) 知性のある「賢い生徒」
- (2) 思いやりのある「優しい生徒」
- (3) 心身共に健康な「逞しい生徒」

【目指す教師像】

- (1) 良き社会人の育成に尽力する教師
- (2) 本校の課題を理解しその解決のために組織の一員として努力する教師
- (3) 生徒理解力や授業力等の教師としての資質・能力の向上を常に目指す教師



第54回入学式 式辞より (抜粋)

・・・(前段 省略)

そこで、そんな人生を送るために、「思いやりのある人」について、二つ、お話したいと思います。

一つ目は「相手の立場に立って考える」、と言うお話です。これは思いやりには欠かせないことだと思いますが、これがなかなか難しいことなのです。

一つ例を挙げましょう。例えばあなたが相手に対して軽い冗談のつもりで言ったことが、とても相手を傷つけることになり、そのことで先生に注意を受けて、「あなたが相手の立場だったらそんなこと言われて、どんな気持ちになるか考えなさい。」、そう言われたとします。つまり「相手の立場、言われた人の立場に立って考えなさい。」、そう注意されたわけです。しかし、あなたがその人の立場に立ったとしても、その言葉であなたは傷つかないかもしれませんし、「自分なら冗談だと笑って済ませます。」などと答えてしまうかもしれません。或いは、「ごめんなさい」と言いつつ、心のどこかで、「冗談、分かってよ」などと呟いてしまうかも知れません。これでは「思いやりのある言動」には見えても、「思いやりのある人」とは言えません。なぜか。それは相手を尊重していないからです。

自分の受け止め方と、相手の受け止め方は違うのだから、単に相手の立場に立っただけでは充分ではありません。そこまでは皆さんにも解ると思います。しかし大切なのはその先です。先ず、相手が何をどのように感じ、考えているかを、想像力を駆使して考えること、次に相手とよく話し合うこと、そして、相手を受け入れること、これが必要なのです。これは大変に難しいことですが、皆さんにはこの三年間、道徳を通して少しでも出来る人になって貰いたいと願っています。

もう一つ「思いやりのある人」について例を挙げますのでまた考えてください。混んだ電車の中でリュックサックを背負ったまま、つり革に手をかけて立っている人や、ドアの脇に立って寄りかかっている人を見かけたことは無いでしょうか。つり革に手をかけ立っている人のリュックサックが後ろの人や通り換えする人の邪魔になっている光景。

また、ドアの脇に立って寄りかかっている人のリュックサックが座っている人の頭に当たっている、そんな光景です。こう言う人は一体どういう人かといえ、やはり「思いやりに欠けた行動」であることは間違いありません。しかし、なぜこうした行動をとるのでしょうか。恐らくこの人は、後ろに立っている人がリュックサックに背中を押されたり、座っている人の顔や頭を押しつけていることに気が付いていません。「気が付いていないと言っても考えれば分かるじゃないですか。」そう非難する人もいるかもしれませんが。しかし気が付かないのでは無く、気が付けないのです。その理由は、この人が背負っているリュックサックに気が回らない、と言うより、この人の責任はリュックサックに迄及んでいないのです。つまり、責任の及ぶ範囲が極めて少なく狭い為、自分の責任として感じないのです。自分の責任を果たせない人は「思いやりのある人」とは言いません。

皆さんにはこれから、この責任の範囲を広げて行って貰いたいと思っています。その範囲は自分のクラスや学年から、やがて自分の家族へ、地域へと広がっていき、そして人だけでなく自然を含めた、日本や世界へと責任を担える、大きな人になって貰いたい、そんな期待をしています。その成長のための準備をこの三年間でして欲しいと願っています。

「思いやりのある人」になること、それはたやすいことではありません。相手を尊重すること、そして先ずは自分自身に責任をもつこと、この二つが出来なければ「思いやりのある人」にはなれません。大変難しいことではありますが、私たち教員が皆さんに、これからの三年間で、きっと思いやりのある人、に導いていきます。それは皆さんの目標でもあり、私たち教師の目標でもあります。お互いこの目標に向かって頑張っていきましょう。

・・・(後段 省略)

令和四年 四月七日

東久留米市立西中学校 校長 藪野勝久